

ACTIVITY REPORT 2025

環境レポート2025

対象期間 : 2024.10.1~2025.9.30

発行日 : 2025.11.14



Table of Content

01

組織の概要

事業所名、代表者名、創立、所在地、資本金、環境管理責任
事業内容、事業規模、認証登録範囲、対象組織図

02

許認可

1. 収集運搬業
 - 1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧
 - 1-2. 許認可別車両一覧
2. 産業廃棄物処分量
 - 2-1. 産業廃棄物処分量保管場所一覧
 - 2-2. 産業廃棄物処分フロー図
 - 2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬の実績（2025年度）
 - 2-4. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物処理の実績（2025年度）
3. 建設業（とび・土工工事業）

03

環境方針

04

環境活動計画

05

環境目標・実績

- 5-1. 2025年度目標及び取り組み結果
- 5-2. 年度別環境目標（中期3か年）

06

環境活動結果とその評価、 次年度の取り組み内容

07

環境関連法規等の順守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- 7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果
- 7-2. 違反・訴訟の有無

08

代表者による見直しと評価の結果

- 8-1. 代表者による全体評価と見直し
- 8-2. 代表者による総括

1. 組織の概要

事業所名、代表者、創立、所在地、資本金、環境管理責任者、事業内容

1. 事業所名 環境開発工業株式会社 (かんきょうかいはいつこうぎょう)

2. 代表者名 代表取締役 吉田 寿一 (よしだ としかず)

3. 創立 1976年(昭和51年)5月19日 【創業49年】

4. 所在地 〒061-1111 北海道北広島市北の里41番地27

5. 資本金 4,800万円

6. 環境管理責任者 取締役 佐々木 リサ

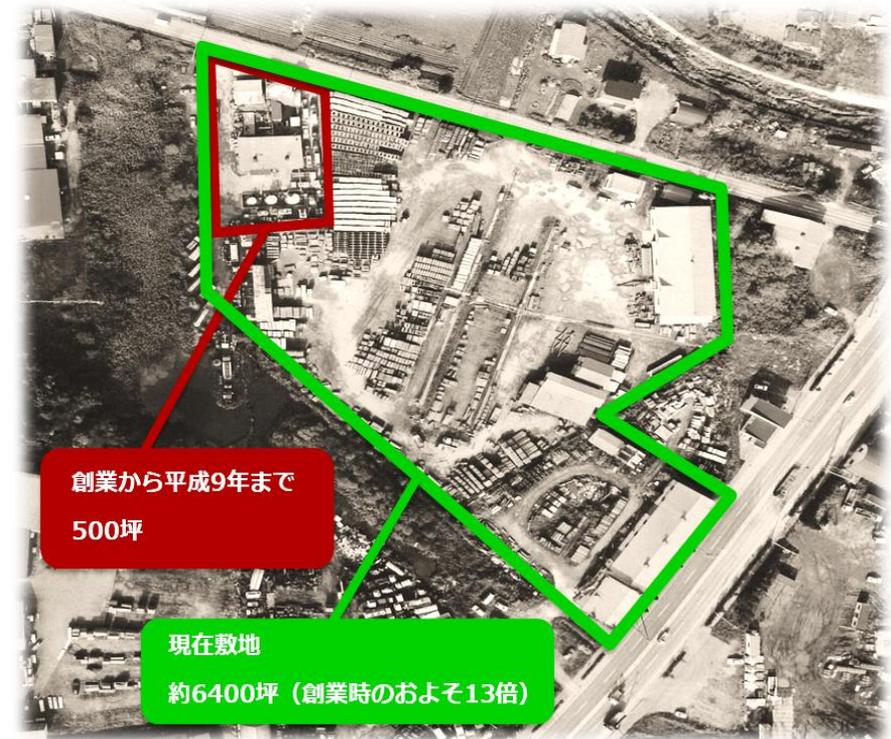
【連絡先】 TEL : 011-373-2728 FAX : 011-373-2499

E-Mail : lisa@kklp.co.jp

7. 事業内容
- ① 廃油(潤滑油)収集運搬・再生重油製造販売事業
 - ② 産業廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
 - ③ 一般廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
 - ④ 特別産業廃棄物(低濃度PCB含む)収集運搬事業
 - ⑤ 廃OA機器、廃消火器リサイクル事業
 - ⑥ 油漏えい事故対応事業(建設業許可 とび・土工事業)
 - ⑦ 一般貨物自動車運送事業



1976年5月19日、創業者：長谷川四郎により産業廃棄物収集運搬処理事業、再生重油販売事業を目的として「㈱廃油処理センター」の名称にて事業開始
1986年、現在の社名である「環境開発工業㈱」に名称変更



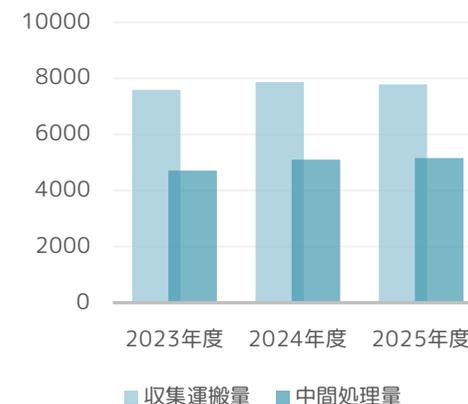
1. 組織の概要

事業の規模、認証登録範囲

8. 事業の規模

活動項目		2023年度 2022.10~2023.9	2024年度 2023.10~2024.9	2025年度 2024.10~2025.9
産業 廃棄物	収集運搬量	7,589.1 t	7,867.4 t	8,141.6 t
	中間処理量	4,707.6 t	5,101.1 t	5,157.3 t
一般 廃棄物	収集運搬量	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	処理量	0.2 t	0.6 t	0.1 t
建設業	工事件数	50.0 件	47.0 件	57.0 件
売上 高	産廃部門	1,193.8 百万円	1,296.8 百万円	1,366.9 百万円
	建設部門	287.5 百万円	96.3 百万円	243.2 百万円
	TOTAL	1,481.3 百万円	1,393.1 百万円	1,610.1 百万円
従 業 員 数	正社員	69.0 名	68.0 名	68.0 名
	臨時職員	30.0 名	29.0 名	30.0 名
	合計	99.0 名	97.0 名	98.0 名
総敷地面積		21,099.6 ㎡	21,099.6 ㎡	21,099.6 ㎡
床面積		4,077.6 ㎡	4,077.6 ㎡	4,077.6 ㎡

■収集運搬量と中間処分量比較（単位：t）



■産廃部門と建設部門の売上構成（単位：百万）



9. 認証登録範囲

登録組織名
認証の範囲

環境開発工業株式会社

再生重油製造販売事業、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、

一般廃棄物・産業廃棄物の処理（リサイクル）業、油漏えい事故対応事業、一般貨物自動車運送業

1. 組織の概要

対象組織図

10. 対象組織図



代表取締役	1.環境方針の制定及び改定 2.環境管理責任者の任命 3.環境マネジメントシステム (以下、EMS)に必要な資源の決定と提供 4.全体の評価と見直しの実施 (指示)
環境管理責任者	1.EMSの統括 2.環境活動計画の推進と検証 3.組織に関わるステークホルダーへの情報発信及び回答 4.環境上の問題点の明確化と解決策の提案 5.全社に対するEMSの運用、進捗状況の報告 6.担当部署内のEMSの統括
各部門	1.目標及び活動計画の立案と推進 2.担当部署内のEMSの運用、進捗状況の報告 3.環境方針の理解と環境目標達成の推進 4.環境活動への積極的参加 5.担当業務で生じた環境活動に関する事項の報告

2. 許認可

収集運搬業（許可番号、取り扱い品目）

1. 収集運搬業

【産業廃棄物収集運搬業】

優良事業者認定取得済

- 許可番号 北海道 第00110004747号
- 許可の年月日 2021年（令和 3年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 2028年（令和10年）6月28日

【特別管理産業廃棄物収集運搬業】

優良事業者認定取得済

- 許可番号 北海道 第00160004747号
- 許可の年月日 2020年（令和2年）8月28日
- 許可の年月日有効年月日 2027年（令和9年）8月22日

【一般廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第68号
- 許可の年月日 2023年（令和5年）12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2025年（令和7年）12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油

許可品目	産業廃棄物区分							
	産業廃棄物			特別管理産業廃棄物				
	許可	積保	石綿含有	特管	積保	有害	PCB	石綿
燃え殻	●	-	-	-	-	-	-	-
汚泥	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃油	●	●	-	●	●	● 11種類	◎	-
廃酸	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃アルカリ	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃プラスチック類	●	●	◎	-	-	-	◎	-
紙くず	●	-	-	-	-	-	-	-
木くず	●	-	-	-	-	-	-	-
繊維くず	●	-	-	-	-	-	-	-
動物性残さ	●	-	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	●	-	-	-	-	-	-	-
金属くず	●	●	-	-	-	-	◎	-
ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	●	●	◎	-	-	-	-	-
鉱さい	●	-	-	-	-	-	-	-
がれき屑	●	●	◎	-	-	-	-	-
動物のふん尿	●	-	-	-	-	-	-	-
動物の死体	●	-	-	-	-	-	-	-
ばいじん	●	-	-	-	-	-	-	-
(廃石綿等)	-	-	-	-	-	-	-	●

◎ → 低濃度ポリ塩化ビフェニル等、汚染物に限る

◎ → 石綿含有産業廃棄物を含むもの



2. 許認可

収集運搬業（積み替え保管場所一覧）

1-1 収集運搬業 積み替え保管場所一覧

産業廃棄物収集運搬 積み替え保管場所				
No.	保管場所内容	面積	保管上限	高さ
		単位：㎡	単位：㎡	単位：m
保管場所1	廃油	10.00	4.80	容器保管
保管場所2	汚泥	47.00	10.00	容器保管
保管場所3	金属くず	10.00	6.00	容器保管
保管場所4	廃プラスチック類	100.00	83.30	3.00
保管場所5	がれき類	20.00	3.20	容器保管
保管場所6	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	212.40	126.00	屋内保管
保管場所7	金属くず、汚泥、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、 廃プラスチック類（水銀使用製品産業 廃棄物であるものを含む）	18.00	9.30	屋内保管
保管場所8	金属くず	48.58	30.00	2.90
保管場所9	廃油	20.00	10.00	容器保管
保管場所10	廃アルカリ	1.80	1.00	容器保管
保管場所11	廃酸	1.80	1.00	容器保管
保管場所12	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	75.00	124.00	屋内保管
保管場所13	金属くず	40.00	39.00	容器保管
保管場所14	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	99.87	216.00	屋内保管
保管場所15	金属くず	33.50	40.00	2.50

特別管理'産業廃棄物収集運搬 積み替え保管場所				
No.	保管場所内容	面積	保管上限	高さ
		単位：㎡	単位：㎡	単位：m
保管場所1	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	5.96	1.931	容器保管
保管場所2	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	10.00	4.80	容器保管
保管場所3	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.00	0.20	屋内保管
保管場所4	廃酸（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
保管場所5	廃アルカリ（pH12.5以上のもの）	1.00	0.60	屋内保管
保管場所6	廃アルカリ（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
保管場所7	汚泥（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
保管場所8	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	0.20	屋内保管
保管場所9	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	4.84	1.60	屋内保管

品目別積み替え保管場所	産廃	特管	合計
廃油	2 箇所	2 箇所	4 箇所
廃プラスチック類	1 箇所	0 箇所	1 箇所
金属くず	4 箇所	0 箇所	4 箇所
汚泥	1 箇所	1 箇所	2 箇所
がれき類	1 箇所	0 箇所	1 箇所
廃アルカリ	1 箇所	2 箇所	3 箇所
廃酸	1 箇所	4 箇所	5 箇所
混合物	4 箇所	0 箇所	4 箇所
積み替え保管場所合計	15 箇所	9 箇所	24 箇所

2. 許認可

収集運搬業（許認可車輛一覧）

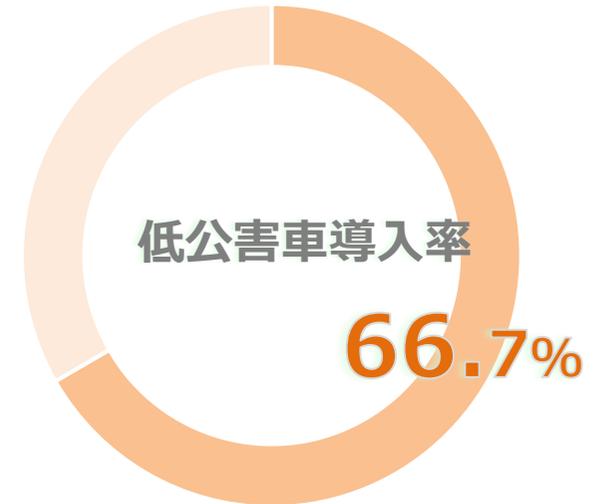
1-2 許認可別車輛一覧

車輛形状	台数	最大積載重量 【単位：t】	許認可別収集運搬車両台数		
			普通	特管	一般貨物
キャブオーバー	11 台	4.70 ~ 11.70	11 台	11 台	3 台
タンク車	12 台	3.00 ~ 12.32	12 台	2 台	0 台
塵芥車	1 台	2.40 ~ 2.40	1 台	0 台	0 台
バン	13 台	0.50 ~ 4.90	13 台	13 台	3 台
ステーションワゴン	4 台	0.17 ~ 0.22	4 台	4 台	0 台
TOTAL	41 台	-	41 台	30 台	6 台

※産業廃棄物収集運搬業の認可を受けていない車輛は除く



環境達成区分	キャブ オーバー	タンク車	塵芥車	バン	ステーショ ンワゴン	箱型 (乗用車)	TOTAL
平成22年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	1 台	1 台	台	2 台
平成22年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成22年度燃費基準25%向上達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成27年度燃費基準達成車	3 台	5 台	1 台	7 台	台	1 台	17 台
平成27年度燃費基準5%向上達成車	1 台	1 台	台	台	台	台	2 台
平成27年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	3 台	台	台	3 台
平成27年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	2 台	2 台
平成32年度燃費基準達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成32年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
	台	台	台	台	台	台	0 台
TOTAL	4 台	6 台	1 台	11 台	1 台	5 台	28 台



全社所有車両42車中（営業車・管理車輛含む）

2. 許認可

廃棄物処分量（許可番号、取り扱い品目、処理能力）

2. 廃棄物処分量

【産業廃棄物処分量】

優良事業者認定取得済

- 許可番号 北海道 第00120004747号
- 許可の年月日 2021年（令和 3年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 2028年（令和10年）6月28日

【特別管理産業廃棄物処分量】

優良事業者認定取得済

- 許可番号 北海道 第00170004747号
- 許可の年月日 2020年（令和2年）10月25日
- 許可の年月日有効年月日 2027年（令和9年）10月24日

【一般廃棄物処分量】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第67号
- 許可の年月日 2023年（令和5年）12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2025年（令和7年）12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油

No.	処理施設名	処理能力	
		1日あたり	1時間あたり
1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
3	汚泥、廃油の油水分離施設3	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
4	汚泥、廃油の油水分離施設4	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
5	汚泥、廃油、廃アルカリの沈降施設	9.984 m ³ /日 (8h)	1.248 m ³ /h
6	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設 1	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
7	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設 2	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
8	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設 3	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
9	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設 4	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
10	廃プラスチック類の圧縮施設1	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
11	固形燃料（RPF）の製造施設	4.480 t/日 (8h)	0.560 t/h
12	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設1	ブ 2.160 t/日 (8h)	0.270 t/h
		金 3.760 t/日 (8h)	0.470 t/h
		ガ 4.000 t/日 (8h)	0.500 t/h
13	廃プラスチック類、金属くず、破碎施設	ブ 4.720 t/日 (8h)	0.590 t/h
		金 3.520 t/日 (8h)	0.440 t/h
14	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の圧縮分離施設	4.320 t/日 (16h)	0.270 t/h
1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h



特別管理産業廃棄物処分量

2. 許認可

廃棄物処分量（処分量保管場所一覧）

2-1 産業廃棄物処分量保管場所一覧

産業廃棄物処分量保管場所一覧				
No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
保管場所1	廃油	20.00	9.60	容器保管
保管場所2	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	44.00	43.20	容器保管
保管場所3	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
保管場所4	廃プラスチック類	45.00	56.00	容器保管
保管場所5	廃油、廃アルカリ (廃クーラントに限る)	33.64	31.60	容器保管
保管場所6	廃油	4.60	7.00	屋外タンク
保管場所7	廃油	4.60	9.00	屋外タンク
保管場所8	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
保管場所9	廃プラスチック類	40.00	56.00	容器保管
保管場所10	廃プラスチック類	9.00	10.80	屋内保管
保管場所11	廃プラスチック類	24.94	36.12	容器保管
保管場所12	廃プラスチック類	39.44	63.24	容器保管
保管場所13	廃プラスチック類	23.04	36.24	容器保管
保管場所14	金属くず	20.00	18.12	容器保管
保管場所15	ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず	25.52	36.08	容器保管
保管場所16	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
保管場所17	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
保管場所18	木くず	24.00	12.73	0.86
保管場所19	廃プラスチック類	17.00	18.12	容器保管
保管場所20	木くず	39.44	72.48	2.50

産業廃棄物処分量保管場所一覧				
No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
保管場所21	廃プラスチック類	15.00	18.75	2.50
保管場所22	廃プラスチック類	99.40	162.48	容器保管
保管場所23	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	10.00	4.80	容器保管
保管場所24	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	36.00	30.00	容器保管
保管場所1	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	4.60	7.00	容器保管
保管場所2	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	40.30	200.00	屋外タンク

特別管理産業廃棄物処分量

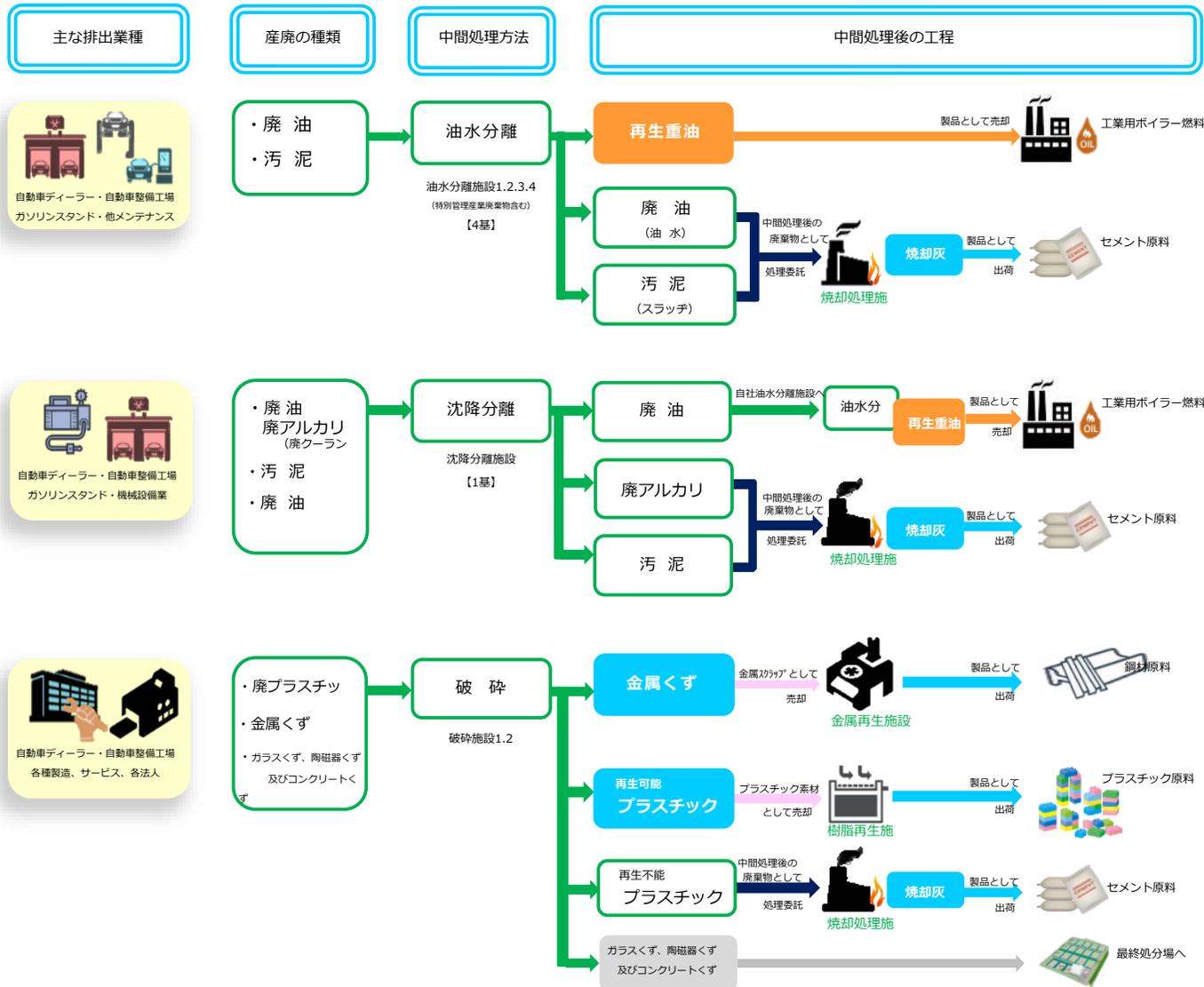
品目別処分量保管場所	産廃	特管	合計
廃油	5 箇所	2 箇所	7 箇所
廃プラスチック類	9 箇所	0 箇所	9 箇所
金属くず	1 箇所	0 箇所	1 箇所
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	1 箇所	0 箇所	1 箇所
木くず	2 箇所	0 箇所	2 箇所
紙くず	2 箇所	0 箇所	2 箇所
混合物	4 箇所	0 箇所	4 箇所
処分量保管場所合計	24 箇所	2 箇所	26 箇所

2. 許認可

産業廃棄物処分フロー図

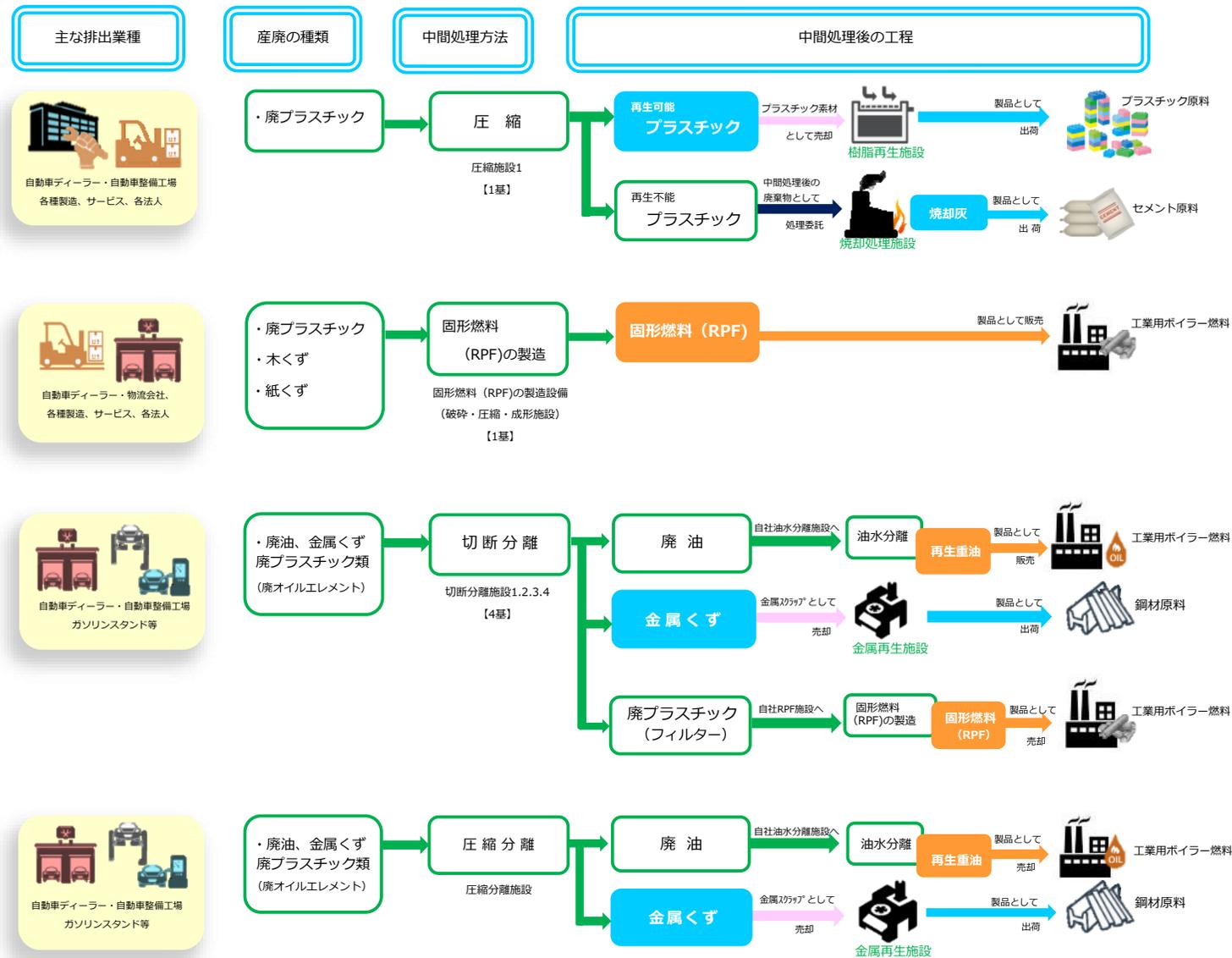
2-2. 産業廃棄物処分フロー図

➡ 中間処理
 ➡ 当社中間処理後の処理委託
 ➡ 売却
 ➡ マテリアルリサイクル
 ➡ サーマルリサイクル
 ➡ 最終処分



2. 許認可

産業廃棄物処分フロー図



2. 許認可

収集運搬実績（2025年度）

2-3 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬の実績（2025年度）

産業廃棄物収集運搬量	
廃棄物種類	収集運搬量
汚泥	193.1 t
廃油	2,461.0 t
廃酸	3.3 t
廃アルカリ	373.3 t
廃プラスチック類	1,361.5 t
木くず	88.4 t
紙くず	0.0 t
金属くず	2,125.4 t
ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	53.2 t
鋳さい	1.9 t
がれきくず	15.2 t
【混合物】廃油・金属くず	0.0 t
【混合物】汚泥・金属くず	3.1 t
【混合物】廃プラスチック類・金属くず	364.3 t
【混合物】廃プラスチック類・金属くず ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	140.0 t
【混合物】廃油・廃アルカリ	0.2 t
【混合物】金属くず・廃油・廃プラスチック類	604.7 t
産業廃棄物 収集運搬量	7,788.4 t

特別管理産業廃棄物収集運搬量	
廃棄物種類	収集運搬量
廃油	326.2 t
廃酸（pH2.0以下）	0.0 t
廃アルカリ（pH12.5以上）	1.2 t
汚泥（有害）	0.0 t
廃油（有害）	0.1 t
廃酸（有害）	0.2 t
廃アルカリ（有害）	0.0 t
強酸	24.2 t
廃ポリ塩化ビフェニル等（低濃度PCB）	1.3 t
【混合物】強酸・金属くず・廃プラスチック類	0.0 t
特別管理産業廃棄物 収集運搬TOTAL	353.2 t

一般廃棄物収集運搬量	
廃棄物種類	収集運搬量
OA機器	0.0 t
廃油・廃食油	0.0 t

2025年度 収集運搬量TOTAL	8,141.6 t
--------------------------	------------------

2. 許認可

廃棄物処分実績（2025年度）

2-4 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物処分の実績（2025年度）

産業廃棄物 処分量			
廃棄物種類	処分方法	中間処分量	内、再資源化
廃油	油水分離	2,534.0 t	2,430.7 t
	沈降分離	42.5 t	0.0 t
廃アルカリ	沈降分離	320.8 t	0.0 t
廃プラスチック類	圧縮	83.9 t	83.9 t
	固形燃料（RPF）の製造	177.2 t	177.2 t
	破碎	1,174.6 t	459.2 t
金属くず	破碎	49.5 t	19.5 t
ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	破碎	34.2 t	0.0 t
木くず	固形燃料（RPF）の製造	88.4 t	88.4 t
紙くず	固形燃料（RPF）の製造	0.0 t	0.0 t
【混合物】金属くず・廃油・ 廃プラスチック類（廃エレメント）	切断分離	521.7 t	521.7 t
	圧縮分離	130.4 t	130.4 t
産業廃棄物 処分量		5,157.3 t	3,911.0 t

特別管理産業廃棄物 処分量			
廃棄物種類	処分方法	中間処分量	内、再資源化
廃油	油水分離	0.0 t	0.0 t

一般廃棄物 処分量			
廃棄物種類	処分方法	中間処分量	内、再資源化
OA機器	破碎	0.0 t	0.1 t
廃油・廃食油	油水分離	0.0 t	0.0 t
一般廃棄物 処分量		0.0 t	0.1 t

中間処理後の廃棄物処分量			
廃棄物種類	最終処分量	中間処分量	内、再資源化
廃油	0.0 t	103.3 t	0.0 t
【処分方法】 焼却			
廃アルカリ	0.0 t	244.3 t	0.0 t
【処分方法】 焼却			
廃プラスチック類	45.0 t	715.4 t	0.0 t
【処分方法】 管理型埋立・焼却			
汚泥	0.0 t	0.0 t	0.0 t
【処分方法】 脱水			
金属くず	0.0 t	32.7 t	0.0 t
【処分方法】 破碎			
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	57.7 t	0.0 t	0.0 t
【処分方法】 管理型埋立・破碎			
木くず	0.0 t	0.0 t	0.0 t
【処分方法】 破碎			
がれき類	0.0 t	9.7 t	0.0 t
【処分方法】 破碎			
産業廃棄物 処分量		102.7 t	1,105.4 t

2. 許認可

建設業許可（とび・土工事業）

3. 建設業許可（とび・土工事業）

- 許可番号 北海道知事許可（般-6）石第23289号
- 許可の年月日 2024年（令和6年）4月5日
- 許可年月日有効期限 2029年（令和11年）4月4日

建設業の許可票	
申請の上名称	環境開発工業株式会社
代表者の氏名	代表取締役 長谷川 徹
建設業の種類	許可番号 許可種別
一般建設業	とび・土工事業

■ 直近6年間の施工実績（単位：百万円）

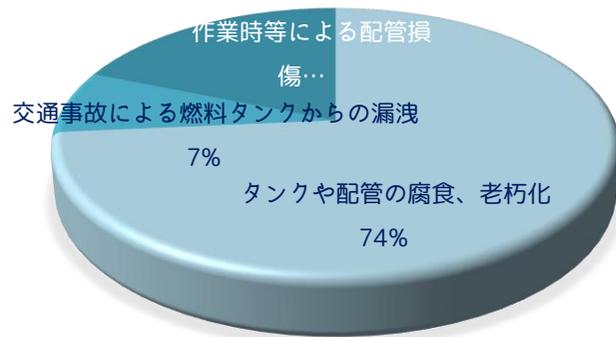
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
174.0	422.8	148.7	287.6	96.3	243.2

※2021年度は大規模工事請負により平均施工金額を上回る



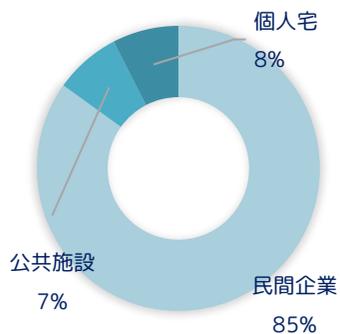
■ 主な漏えい発生原因

漏えい発生原因	件数
タンクや配管の腐食、老朽化	39 件
交通事故による燃料タンクからの漏洩	4 件
作業時等による配管損傷	10 件



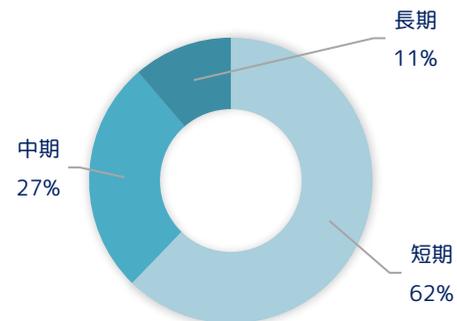
■ 主な発生内容

発生場所	件数
民間企業	45 件
公共施設	4 件
個人宅	4 件



■ 主な発生内容

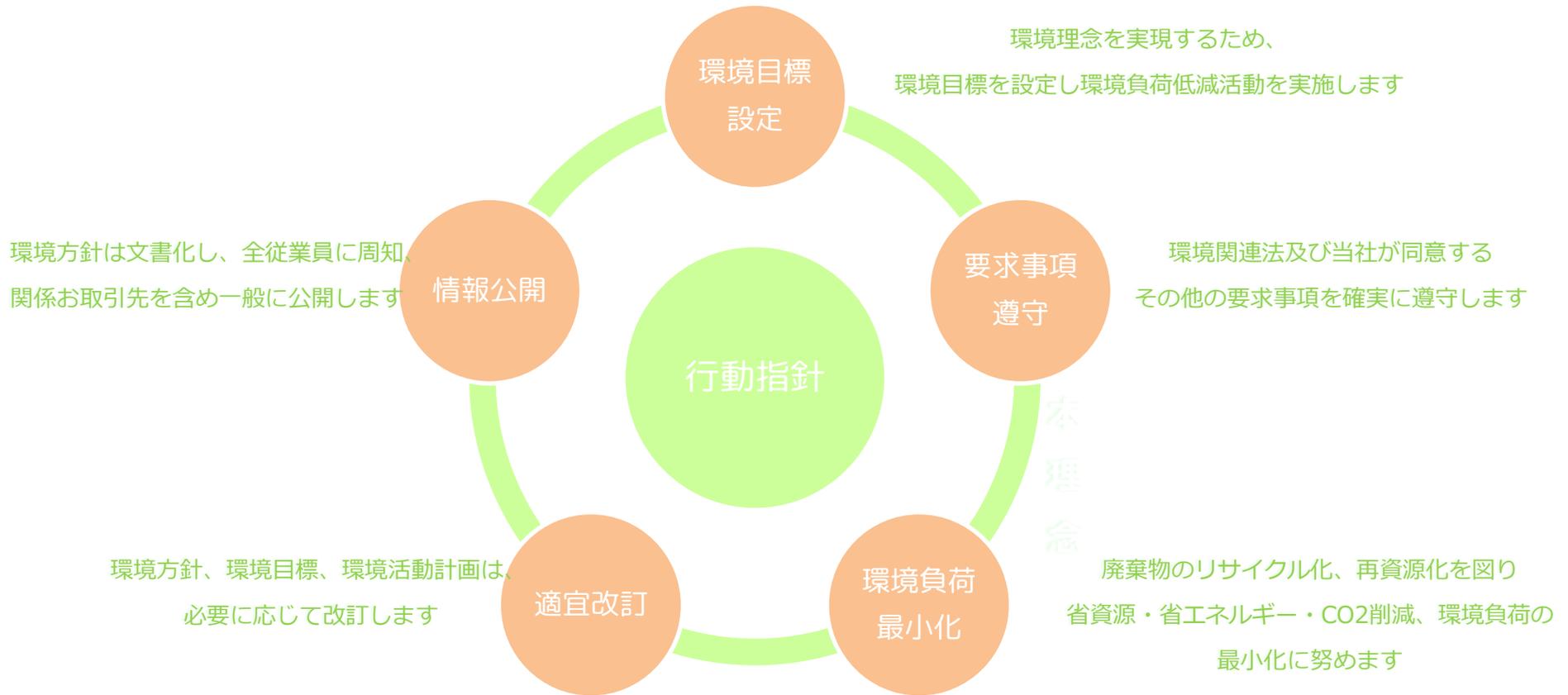
施工期間	件数
短期（数週間）	33 件
中期（数か月）	14 件
長期（年単位）	6 件



3. 環境方針

環境開発工業株式会社は廃棄物処理、リサイクルを主な事業としており、事業そのものの中で不適切な遂行は、直接重大な環境破壊や汚染を招く事を強く認識・自覚し、当社の最大能力を尽くして適正処理・環境負荷軽減を実行するとともに継続的改善を行い

『より良い環境を次世代に継いで行く』事をモットーに地域や社会そして、地球環境に貢献してまいります。



改定日 2025年11月19日

環境開発工業株式会社
代表取締役

吉田寿一

4.環境活動計画

SDGsに貢献する環境活動計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
1・二酸化炭素排出量の削減																		
産業廃棄物収集運搬車輛におけるエコドライブの促進と燃費向上							●				●		●		●			
製造・処理施設及び事務所等構内各所における電気及び化石燃料使用の低減							●					●	●					
2・省資源の促進																		
水を扱うすべての構内において節水を意識した使用量の削減							●				●	●						
3・資源循環の向上と埋立量削減促進																		
再生資源化品の生産量向上に努め、循環型社会形成に貢献							●		●			●	●					
廃プラスチック類の分別及び選別の徹底による埋立廃棄物の削減							●		●			●	●					
4・環境配慮製品の利用推進と導入																		
地球環境に配慮したバイオ製剤の利用							●					●		●	●			
環境負荷低減に配慮したグリーン購入品の促進							●					●			●			
車両入替時による大気汚染物質の排出が少ない低公害車導入の配慮							●						●		●			
5・次世代に繋がる環境貢献活動の推進																		
「SDGs」が掲げる17の目標の推進と実行	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
森林維持及び保全活動の支援													●	●	●	●	●	
構内から発生する油脂の除去及び構外への漏洩防止							●					●		●	●			
近隣地域及び社会への貢献可能な寄付活動			●	●						●	●	●					●	
6・あらゆる人々との協力と協調																		
障がい者、高齢者の積極的雇用	●				●													
意思決定における女性参加、平等なリーダーシップの機会を確保					●													
社員満足度の向上及び安定収益の維持継続									●								●	

5. 環境目標・実績

2025年度目標及び取組み結果

5-1 2025年度目標及び取組み結果

環境目標項目			単位	主幹部門/ 責任者	前年度実績 2023年10月~ 2024年9月	今年度目標値 2025年度	達成手段	今年度実績 2024年10月~ 2025年9月	目標比	評価
二酸化炭素排出量削減	化石燃料 使用量	ガソリン	ℓ/年	管理部門/部門長	14,560.0	14,700.0	営業担当2名増員による営業活動増	15,431.0	731.0	×
		軽油	ℓ/年	業務部/部門長	261,165.6	260,000.0	急加速・急ブレーキの抑制	254,108.8	-5,891.2	◎
		灯油	ℓ/年	資源リサイクル部/部門長	2,006.0	2,090.0	ウォームビズの推進	2,539.7	449.7	×
		重油	ℓ/年	オイルリサイクル部/ 部門長	84,000.0	84,000.0	ボイラー1台休止により減	64,000.0	-20,000.0	◎
		LPG	kg/年	オイルリサイクル部/ 部門長	80.0	80.0	ボイラー1台休止により減	20.0	-60.0	◎
	電力使用量	工場・施設	kwh/年	資源リサイクル部・ 管理部門/部門長	364,447.0	372,400.0	エアコン使用増、廃棄物大量入荷に伴う処理増	417,326.0	44,926.0	×
	二酸化炭素排出量		kg-CO ₂ /年	-	940,461.6	995,000.0	*****	1,153,337.7	158,337.7	×
収集運搬車両 燃費向上		km/年	業務部/部門長	3.8	3.6	急加速・急ブレーキの抑制	3.7	0.1	◎	
省資源	水の使用量削減		m ³ /年	資源リサイクル部・ 管理部門/部門長	1,856.0	1,900.0	RPF燃料製造時の冷却を水槽式に変更したことによる削減	1,635.0	-265.0	◎
資源循環・埋立削減	再生資源製造 出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル部/ 部門長	12,095.7	11,590.0	廃油収集量前年同等であるため、要観察	10,816.2	-773.8	×
		RPF(固形燃料)	t/年	資源リサイクル部/部門長	283.3	500.0	設備増強見送りのため減	343.8	-156.2	×
		非鉄・金属	t/年	資源リサイクル部/部門長	2,283.4	2,900.0	分別エリア変更に伴い、手法向上したものの目標には届かず	2,706.3	-193.7	×
	廃プラスチック類の中間処理後の埋立量削減		t/年	資源リサイクル部/部門長	45.0	8.0	設備増強見送りのため増	45.0	37.0	×
環境配慮製品購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	環境リサイクル部/部門長	885.0	500.0	原因者に対する浄化処理方法へ提案、促進	1,126.0	626.0	◎
	グリーン購入 (環境配慮製品含む)		種/年	総務部/部門長	18.0	15.0	購入時に優先検討	16.0	1.0	◎
	低公害車導入	所有車輛入替時による導入促進	件/年	業務部・管理部門/部門長	4.0	3.0	車両入替時に検討	3.0	0.0	◎
社環境活動貢献	森林維持・保全活動	森とアースへのECO-P支援	回/年	総務部/部門長	1.0	1.0	オイルリサイクル組合との共同参加支援	1.0	0.0	◎
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	総務部/部門長	8.0	6.0	構内油漏洩防止対策による構内洗浄	5.0	-1.0	△

【評価記号】 ○ ⇒ 目標達成及び次年度継続 ▲ ⇒ 目標未達成であるが、要観察として目標値維持 × ⇒ 目標値変更

5. 環境目標・実績

年度別環境目標（中期3か年）

5-2 年度別環境目標（中期3か年）

貢献するSDGs	環境目標項目	単位	主幹部門	初年度実績 2017年10月～ 2018年9月	中期目標値			
					2024年度(今年度)	2025年度	2026年度	
二酸化炭素排出量削減 	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ/年	管理部門	21,788.0	15,000.0	14,700.0	14,550.0
		軽油	ℓ/年	業務部	230,021.0	265,000.0	260,000.0	260,000.0
		灯油	ℓ/年	資源リサイクル部	22,191.0	2,200.0	2,090.0	1,870.0
		重油	ℓ/年	オイルリサイクル部	78,000.0	84,000.0	84,000.0	67,200.0
		LPG	kg/年	オイルリサイクル部	80.0	80.0	80.0	80.0
	電力使用量	工場・施設	kwh/年	資源リサイクル部・管理部門	387,936.0	380,000.0	372,400.0	368,600.0
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	-		1,183,437.0	980,000.0	995,000.0	998,000.0
	収集運搬車輛 燃費向上	km/年	業務部	3.4	3.5	3.6	3.7	
省資源 	水の使用量削減	m ³ /年	資源リサイクル部・管理部門	1,784.0	1,900.0	1,900.0	1,800.0	
資源循環・埋立削減 	再生資源製造出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル部	9,955.0	11,000.0	11,590.0	11,680.0
		RPF(固形燃料)	t/年	資源リサイクル部	658.7	450.0	500.0	600.0
		非鉄・金属	t/年	資源リサイクル部	3,169.0	2,900.0	2,900.0	2,950.0
	廃プラスチック類の中間処理後の埋立量削減	t/年	資源リサイクル部	6.9	10.0	8.0	5.0	
環境配慮製品・購入 	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	環境リサイクル部	438.0	500.0	500.0	550.0
	グリーン購入（環境配慮製品含む）		種/年	総務部	11.0	15.0	15.0	15.0
	低公害車導入	所有車輛入替時による導入促進	件/年	業務部・管理部門	3.0	3.0	3.0	2.0
社会環境貢献 	森林維持・保全活動	森とアースへのECO-P支援	回/年	総務部	1.0	1.0	1.0	1.0
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	全社	6.0	6.0	6.0	6.0

※電力算出係数 北海道電力0.676kg-CO₂/Kwhを使用

※化学物質の未使用につき目標設定なし

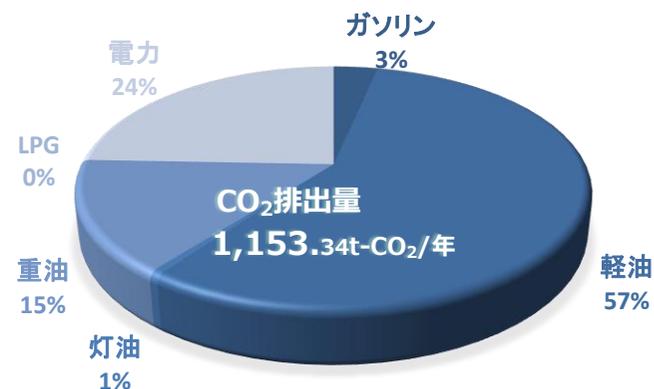
6. 環境活動結果とその評価及び次年度の環境活動計画

2025年度目標及び取組み結果

1. 二酸化炭素排出量削減



2025年度	エネルギー使用量 (t/年)			CO ₂ 発生量 (t-CO ₂ /年)		
	目標	実績	差異	目標	実績	差異
ガソリン	14.70	15.43	0.73	34.10	35.80	1.70
軽油	260.00	254.10	-5.90	670.80	655.60	-15.20
灯油	2.09	2.53	0.44	4.98	6.32	1.34
重油	84.00	64.00	-20.00	227.64	173.44	-54.20
LPG	0.08	0.02	-0.06	0.24	0.06	-0.18
電力	372.40	417.30	44.90	137.20	282.12	144.92
TOTAL	733.27	753.38	20.11	1,074.96	1,153.34	78.38



2. 省資源の促進・節水



今年度の水道使用量は、前年比-221m³と大きく下回り、節水に貢献。要因は、RPF製品の散水式から水槽市式に切り替えたことにより、大幅削減に繋がった。



3. 資源循環・埋立削減



今年度の埋立量は、目標値を大きく上回る結果となった。要因としては大幅に物量があがったこともあるが、マンパワーでの分別に頼り、素材選別制度に限界が来ている。時期目標値は先々を見据えて設定することが急務である。

6. 環境活動結果とその評価 環境配慮・貢献活動

4. 環境配慮・貢献活動



北海道内では多くの灯油タンクを所有していることから、灯油を始めとする多くの石油類の漏えいが発生しており、行政に届けられている案件以上に漏えい事故が発生していると言われています。2016年度より事業化してからの取扱い件数は年々増加しており、同じ油漏えいであっても場所や状況によって施工方法が異なります。また、汚染規模によっては数年に渡って施工する例も数多くあります。近年の大型施工案件としては、路面凍結した国道を走行中のタンクローリーが横転。積載していた石油類が漏洩し、国道を伝って林地や河川に流出するという事故が発生しました。この除去作業には1年を有しましたが、迅速な対応かつ自然環境を守るという強い使命感をもって除去作業に尽力しました。1年の作業を経て無事に現状回復を致しました。



事故当初
河川に石油類が流出し、吸着マットで
流出防止を実施



■主な施工方法

「油漏洩対策」はおよそ13種類の方法があると言われています。当社では主に3種の方法で対応、中でも「バイオレメディエーション 生物学的環境修復工法」(※環境省認可済)を中心に進めております。

「バイオレメディエーション 生物学的環境修復工法」とは？

微生物や菌類、植物等を利用して有害物質に汚染された自然環境を元の状態に戻すことを意味します。

- 油を食べる微生物を利用した生分解剤を使用
- 微生物は無害で、食べる油分がなくなると死んで土に還る



バイオレメディエーション工法で
使用している2種の生分解剤



汚染された土壌を
「オイルスポンジ」を
散布、バイオの力で浄化

工事名	国240号国道付灯油漏れ処理工事
工事内容	汚染土壌の除去
作業状況	

工事名	国240号国道付灯油漏れ処理工事
工事	
作業状況	0月29日

6. 環境活動結果とその評価 環境・社会貢献活動

5. 環境・社会貢献活動

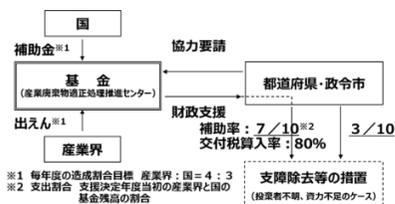


■ 寄付活動による社会貢献

SDGsの目標でも掲げている社会貢献活動。今期も業績好調により、収益の一部を各方面へ寄付という形式で貢献いたしました。

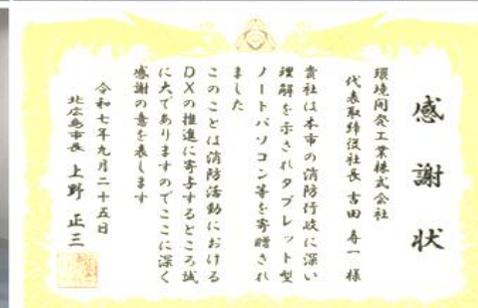
① 環境省 産業廃棄物による支障除去のための基金への寄付

廃棄物の適正処理は排出事業者課された責任であり、それを担うわが社としては不法投棄の未然防止、不法投棄撲滅の観点より微力ながら、この度基金への寄付を行いました。不法投棄は生活環境保全上の支障が生じ、原因者等が不明な場合には、都道府県等が代執行を行います。その費用は産業界と国が積み立てた基金の一部より補助しています。私たちの産業界が行う取組姿勢を今後も支援していくとともに、より良いきれいで住みやすい市町村、街づくりに貢献できればと思っています。



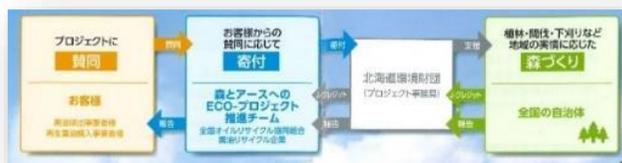
② 地元への社会貢献 北広島市消防本部へ物品寄贈

昨年に引き続き、毎年地域貢献の一環として北広島市消防本部様に対し物品寄贈を行いました。今年度は地域の消防活動に役立てていただくため、ノートパソコン4台、タブレット4台、周辺機器一式を寄贈いたしました。現場での災害対応や訓練において、デジタル機器の活用が広がることで、よりスムーズな情報共有や安全性の向上が期待されています。今回の寄贈が、日々地域を守る消防の皆さまの力となり、DX推進の一助となれば幸いです。



③ 森とアースへのecoプロジェクトへの参加

本プロジェクトへの参加も今年で11年目を迎え、廃油リサイクルを今後も日本各地の森づくりにお役立ていただき少しでもCO₂が吸収されることを願っています。



※各項目で未達成事項もあるが、中期環境目標計画に沿って次年度の環境活動計画内容の取り組みは引き続き継続して取り組むこととします。

7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

法区分	遵守事項	遵守評価
産業廃棄物処理法	委託契約書の締結	◎ 全顧客契約締結及び原本5年間保管
	マニフェスト伝票の管理	◎ 原本5年間保管
	処分保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	積替え保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	運搬車の表示と許可証写、マニフェスト携帯	◎ 全許可車両遵守 車両3車新規追加
	収集運搬業内容の変更	◎ 2025年度 代表者変更、運搬車輛3車追加
	処分業内容の変更	◎ 2025年度 代表者変更
	処理施設内容の変更	◎ 変更なし
	産業廃棄物処理施設実績	◎ 2025.6 北海道へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2025.6 北海道へ報告
	産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2025.6 北海道へ報告
	産業廃棄物収集運搬実績	◎ 2025.6 札幌市へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2025.6 北海道へ報告
産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2025.6 北海道へ報告	
消防法	危険物施設、設備全社構内	◎ 2025.9月 移動タンク年次立入検査特段、指摘事項なし
北海道循環型社会推進条例	委託した産廃処分の処分状況の確認及び記録保管	◎ 処分場現地確認記録

法区分	遵守事項	遵守評価
騒音振動	特定建設作業（工事）に伴い発生する騒音・振動	◎ 特定建設工事の請負実績なし
大防法	炉筒煙管、水管ボイラ 煤塵,Sox,NOx 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内
フロン排出抑制法	タイヤショベル及び事務所内業務用エアコンの定期点検（4回/年）	◎ 2025.9 簡易点検実施
海洋汚染防止法	事業実績報告	◎ 2024.10 北海道運輸局へ年次事業報告
家電R法	リサイクル券の発行	◎ 今期家電廃棄なし
自動車R法	リサイクル券の発行	◎ 車両3台導入 リサイクル料金購入時清算
公害防止条例	騒音・振動発生施設 コンプレッサー：2基 遠心分離機：2基	◎ 2025年度 代表者変更
水質汚濁防止法	特定施設の破損等事故が発生した場合の応急の措置と報告の届出	◎ 該当の事故なし

7-2. 違反・訴訟の有無

上記の通り、順守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘もありませんでした。

8. 代表者評価

8-1. 代表者による全体評価と見直し

【環境方針】 変更有無 ⇒ なし

本方針は当社の企業理念を軸にし、事業内容とマッチングしているため、当面は本方針をベースとして運用を行う。

但し、環境方針とは別途「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時並行する。

【環境目標】 変更有無 ⇒ なし

■ 二酸化炭素排出量削減 化石燃料使用量

本年より中期計画見直し時に化石燃料の取扱いについて大幅に見直した。特に軽油使用量については回収範囲の拡大に伴い、単純な使用量ではなく使用率も鑑みながら、目標値を設定する。

【環境活動計画】 変更有無 ⇒ なし

5. 次世代に繋がる環境活動の推進

「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時に遂行する。但し、2025年度に向け、17すべての目標を遂行できるよう、模索すること。

■ 資源循環・埋立削減

RPFの納品スペック（塩素0.3%以下）を遵守するため、適合原材料が減少しているが、分別方法の見直しや治具などを検討し製造量増産に務めること。

8-2. 代表者による総括

エコアクション21プログラムの運用を開始してから9年目を迎え、CO₂削減削減達成を軸にSDGsの推進へも尽力している。特に2030年度までにはCO₂削減43%減を達成するべく、処理設備を見直し、あらゆるステークホルダーの方々にご納得いただける計画を遂行し、創業当時からのわが社の基本理念である『より良い環境を次世代に継いで行く』を更に加速させるとともに、お客様、そして社会から必要とされ続ける企業として今後も尽力して参ります。

2025年11月14日

環境開発工業株式会社

代表取締役

吉田寿一